ごあいさつ

理事長　杉本　宗之

平素より、私ども「四国ろうきん」をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。
本年もここにディスクロージャー誌「2024四国ろうきんの現況」をお届けします。

「ろうきん」は、かつて「金融排除」された労働者や生活者が「相互扶助」の精神で資金を出し合って創った「協同組織の福祉金融機関」であります。1952年の設立からこの間、私ども「四国ろうきん」が常に勤労者に寄り添いながら時代の変化とともに勤労者の多様なニーズに応えてくることができましたのは、ひとえに会員の皆さまや関係各位のご理解とご支援の賜物であり心からの感謝を申し上げます。

2023年度は３年目に突入し泥沼化しているロシアのウクライナ侵攻に加え、イスラエル・パレスチナ問題とそれに伴う中東情勢の不安定化が世界を揺るがす中、我が国においては元日の能登半島地震の発生や物価高、政治不信など様々な問題が噴出した１年となりました。一方、４年半にわたって猛威を振るってきた新型コロナウイルス感染症も「５類移行」で一定落ち着き、日銀のマイナス金利政策も解除されるなど、社会経済は大きく動き出しています。
私どもはこのような激変する社会環境の中、「デジタル革命下での経営改革」と「理念経営の実践による役割発揮宣言」を二大テーマに「ろうきんアプリ」の機能強化や「iDeCo」「新NISA」の積極推進などで独自の強力なブランド力確立に向けた事業を展開し、「第８期中期経営計画」の最終年度を乗り切る事が出来ました。
しかしながら、収支面では、経常利益は７億29百万円、当期純利益は５億36百万円と、コロナ禍や物価高そして長期化する低金利環境という厳しい経済環境の影響を受け、厳しい舵取りとなりました。なお、自己資本比率は、10.32％となりました。

2024年度は、「第９期中期経営３カ年計画」のスタートの年になります。「働く人の夢と共感の創造」と「共生社会の実現」を旗頭に、将来にわたって会員やお客さまに信頼され選択され愛され続ける「四国ろうきん」を目指します。その大きな柱として人財を資本と見做す「人的資本経営」を掲げ、「人財育成」にかかる資金はコストではなく「投資」と認識し、「人」を大切にする、風通しの良い四国ろうきんを目指すことにしました。

４月には四国南西部を震源とする震度６弱の地震もございましたが、今後数年のうちには南海トラフ大地震の発生も想定されますし、急騰する物価高などの影響で勤労者や生活者の負担は増す一方でございます。「四国ろうきん」はそのように激変する環境にもしっかり対応し、自身の社会的存在意義をしっかり自覚し、「協同組織福祉金融機関」としてその使命を果たして行く所存でございます。役職員一丸となってこの難局を乗り切る覚悟でございますので、どうぞ会員の皆様方におかれましても、これまで以上のご理解とご支援をお願いするものでございます。

このディスクロージャー誌は、「四国ろうきん」の機能や役割、そして2023年度の業況等を取りまとめたものです。本誌によって、私どもに対するご理解を一層深めて頂ければ幸いに存じます。

2024年７月